

港区みんなと3Rスタートフォーラム 議事録(要旨)

- ・ 主催 港区3R推進行動会議
- ・ 日時 平成19年3月27日(火) 13:00~16:00
- ・ 会場 芝浦港南区民センター

1. 開会 区長あいさつ

- ・ 港区では、区民・事業者・行政の3者で構成する港区3R推進行動会議を設け、本日のフォーラムは当該会議が主催をしている。
- ・ 環境カウンセラーの崎田裕子さんを座長に、平成18年から身近に出来ることでどのようなことがあるか検討をしてきた。
- ・ 3Rは循環型社会とごみの発生抑制、資源の再利用・再生利用を推進するものである。
- ・ 区民・事業者と共に、具体的に出来る3Rの取り組みを全国に発信していきたい。
- ・ 区としても、新年度から循環型社会形成への意識向上を図ると共に、マイバッグ利用の推進やレジ袋削減を目指したご近所3Rキャンペーン、事業系ごみ減量のための区内の事業者・在勤者を対象としたひるどき3Rキャンペーン等の取り組みを新規に開始し、3R推進による活力ある都心づくりを目指し、地域コミュニティの活性化を図っていきたい。
- ・ ごみの減量と回収率の向上を図るべく、10月からモデル地区を設け、すべてのプラスチック類を資源として回収し、リサイクルする取り組みを開始し、20年度には全区に展開していきたい。
- ・ 生ごみ処理機の購入助成も開始する予定。
- ・ 実現可能なごみの減量とリサイクルを、区民・事業者と共に進めていきたい。
- ・ 掛け替えのない地球環境を維持し、生命を守ることはもとより、未来の子どもたちのためにより良い環境を築いていかなければならないのが、我々の責務である。
- ・ 区民・事業者・区が協働して3Rを推進し、港区らしい循環型社会を実現させていきたい。皆さんのご理解・ご協力をお願いしたい。

2. 基調講演 ペオ・エクベリ氏

持続可能な社会の実現においてごみの減量や3Rは大きな鍵だが、考えれば考えるほど、ごみと言えるものはなくすべては資源である。環境先進国であるスウェーデンでは、ごみはほとんどなくなっている。スウェーデンでは市民・企業・行政が一体となって、2021年までに、主な環境問題をすべてなくすマニフェストを作った。マニフェストを踏まえた法律により、ごみの分別は最終的に約100種類に上る。この数は多いように感じるかもしれないが、身近なところに24時間オープンの分別システムが存在し、誰もが参加でき円滑に行われている。3Rの導入によりマジックが起きる。ごみはなくすべては資源ということ覚えておいてほしい。

3 . 港区 3 R 推進行動計画 報告

- ・ 港区 3 R 推進行動会議は、昨年 10 月から始まった。
- ・ メンバーは崎田裕子さんを座長に、区民 7 名、商店街や流通団体など 4 名、区の関係者、合計 14 名で、港区のごみ資源の現状や課題について話し合い、港区でごみを減らすための方策について議論し、港区 3 R 推進行動計画を策定した。
- ・ 行動会議では議論にとどまらず、ごみ資源を実感するための調査ということで、50 世帯で 1 週間、不燃ごみの発生調査を行った。調査の結果、1 世帯、1 週間平均 45 リットル、重さにして 1 kg の発生、その 8 割が容器包装であることを確認した。
- ・ レジ袋を断っている世帯はごみの量が少なく、平均 45 リットルに対して 34 リットル。背景として、ごみ減量の意識の高さがあるものと思われる。
- ・ 更に、可燃ごみ・不燃ごみの内容について、20 品目に分けて調査を行い、それぞれの重量の 1 割ほどが、分別に間違いがあることが分かった。中でも不燃・可燃を問わず、プラスチックごみが相当量を占めていることが分かった。
- ・ これら調査を通じて、実際にごみや資源に触れることで、これからどうしたらいいかということが、メンバーの中で共通認識を持つきっかけになった。
- ・ 最終的にまとめた計画では、コンセプトとして 3 R 推進による活力ある都心づくりを掲げた。ごみを減らすにとどまらず、ごみを減らすことを参加型でやることで、コミュニケーションを活性化させる。まちが元気になるための方策として、3 R を活用しようという位置付けである。
- ・ 目標として、ごみや資源に関する啓発、区民・事業者の行動の充実、区民・事業者・区の共同の推進の 3 点を掲げた。
- ・ 計画の進め方として、身近なところから進めること、在勤者の多い昼時に進めること、この二つを重点的にやっていくことを掲げた。
- ・ 進めていくプロジェクトとして、3 R 学習会の開催、ごみ資源実感調査、マイバッグの利用促進、ストップ！レジ袋、イベントの 3 R 推進、ひるどき 3 R 企画会議、生ごみ堆肥化 & 緑化推進の 7 点を掲げた。
- ・ これまでは行動会議のメンバーだけで議論してきたが、これからは具体的な行動に入るため、ワーキングチームを作ることにした。具体的には区内在住・在勤・在学者や、3 R に関心がある人すべてを対象とし、3 R サポーター制度を創設したい。
- ・ 本日の参加者においても、関心がおありであれば情報をお出ししたいので、お申し出いただきたい。

4. リレー・トーク

《スピーカー自己紹介》

【J-WAVE 81.3FM LOHAS SUNDAY ナビゲーター 大橋マキ氏】

- ・ アロマセラピストとして、病院でお年寄りの方にアロママッサージをしたりしているうちに、アロマは植物から取れるということで、環境問題にいつのまにか関心を持つようになった。
- ・ 日曜日の朝6:00から9:00には『LOHAS SUNDAY』というラジオ番組を担当している。朝早いので聞いてもらえないのではという懸念があったが、アル・ゴアの映画がヒットしたり、エコへの関心が高まっていることを実感している。
- ・ リスナーからの声として、自分に何が出来るかが知りたいというのが多い。
- ・ 世界的に有名なチャック・ジョンソンという歌手が、『The 3R』という歌ってヒットさせているぐらい、3Rへの関心は高まっていると思う。

【環境カウンセラー、港区3R推進行動会議座長 崎田裕子氏】

- ・ 港区3R推進行動会議の座長として議論を続けてきた。
- ・ 環境分野のジャーナリストとして活動しているが、自分で取材して書くだけではなく、自分に何が出来るか、実践することが大事だと考え、つけっぱなしの玄関の電気を消すとかやり始めたのだが、一番気になったのが容器包装の多さで、10年前からごみダイエットを始めた。
- ・ 毎日ばかりでごみを量って出すのを始めて驚いたのは、自分が環境ジャーナリストをしながら、自らごみを大量に出していることに気付いたこと。そして、減らそうと思ったら実際に減ったということである。
- ・ 我が家には6・3・1という数字がある。6はごみの総量の6割がたった1年で減ったこと。3は資源として出しているのは前の年の3割になったこと。1はごみとして捨てたのが1割になったこと。それは無理やりやっているのではなく、ライフスタイルの中で定着させれば実践可能であるという実感がある。

《会場への質問コーナーとコメント》

大橋氏から会場の参加者に対してアンケートが行われた。参加者は配布された×のカードを用いて大橋氏の質問に答えた。各質問への結果について、大橋氏・崎田氏・エクベリ氏がコメントした。

- 会場の参加者への質問で町会・自治会の資源回収活動の参加率の高さを受けて
 - ・ すごいことだと思う。1人の活動が10人に影響すると思う。
 - ・ 資源回収の徹底は非常に重要。会議の中でも、分別の徹底度合いについて調べたが、資源になるものがごみの中に2割ぐらい混入していた。
- 会場の参加者への質問で、レジ袋を断っている人が半々程度だったことに対して
 - ・ レジ袋は便利で、年間1人300枚ぐらい使っている。ちょっとずつでも断っていききたいものであり、そのためにはマイバッグの持参が必須。
 - ・ マイバッグには大きな意味がある。ある調査によれば、1日に出ているレジ袋をひもにすると、日本の分だけで地球1周以上になる。マイバッグはエコマジックである。
- 会場の参加者への質問で、みんなとエコポイント制度を使っている人が少なかったことに

対して

- ・ 例えばマイバッグを持っていくとか、簡易包装のものを選んだ時に、そこを褒めてもらう機会がたまって行って、それが区内で他のことに使える。楽しいことにつながる取り組みはすてき。
- 会場の参加者への質問で、冷蔵庫に食品を詰めすぎないようにしている人が多かったことに対して
 - ・ スウェーデンの調査によれば、冷蔵庫を窓のそばに置かない、日が当たらない、オープンの近くに置かないようにすると、年間250kgのCO₂を減らせる。それプラス四つか五つのアクションをみんながすると、京都議定書が達成出来る。
 - ・ 仕事を持っていると、つい土日にもまとめ買いをしてしまって、冷蔵庫に詰めがち。結果的に賞味期限が切れて捨ててしまうこともある。4割以下という日本の食糧自給率を考えて、食べ物を大切にすることが求められるので、冷蔵庫一つでも結構いろいろなことにつながると思う。
- 会場の参加者への質問で、水の使用料を減らす努力をしている人が結構多かったことに対して
 - ・ 海の近くのまちなので、水の大切さを感じておられるのかもしれない。ちょっとうれしい結果である。
 - ・ 洗面所は私たちの川の入り口である。

〈リレー・トーク〉

区民・事業者・行政の代表が3Rに対するそれぞれの取り組みを紹介した。紹介後には、大橋氏・崎田氏・エクベリ氏からコメントがあった。

【港区消費者団体連絡会】

- ・ 港区に清掃工場が作られることになった時に、ごみを減らそうということで活動をしてきた立場から、非常に危機感を持ったことがきっかけで焼却場の在り方を考える活動を展開。
- ・ 当時は高度成長の真っ最中で、いろいろな過剰包装が増えており、ごみを出すことに抵抗がない時期だったので、ごみを減らそうと言っても抵抗感を持たれた。
- ・ 次のステップとして、リサイクル活動の協力し、港区のリサイクル事業のきっかけを作った。
- ・ 当時、住民のみならず、行政もごみを減らすことに非常に熱心であった。特に外国、スウェーデン・ドイツが環境先進国だったので、そういうところに視察に行ったものの、日本に帰ってきてそれが実行出来ないというジレンマに陥った。
- ・ 今、ここに来て、日本人も外国に負けないで、日本人の力でリサイクル、資源に生かす方法を探っていかなければいけない。
- ・ プラスチックを資源に生かす方法が非常に重要。その点で、皆さんとこういう機会を通じて、事業者・行政・区民・団体が一緒になってこういうイベントをやっていくことが大切だと思う。

【コメント】

- ・ 日本人として誇りを持ってほしい。熱心な人はスウェーデンに引けをとらないくらい多い。

- ・ 問題は、いつまでに何をするか、はっきりとしたマニフェストがないことである。
- ・ スウェーデンのシステムを丸ごと日本に持ち込むのは無理。日本らしいシステムを考えるべき。
- ・ スウェーデンの環境省の長官は、もともとNGOのリーダーだった。まずは、政治家に提案を。政治家が動かなければ、自らが政治家になってほしい。

【港区3R推進行動会議委員】

- ・ 我が家では台所の生ごみをコンポストにしてプランターで緑のカーテンを育てている。
- ・ いい堆肥が出来ると、ほくほくといいにおいになる。料理感覚、サラダを作るような感覚で楽しんでいる。
- ・ 夏で1週間、冬でも1~2か月で土になる。
- ・ 緑のカーテンは、エアコンの排水やお風呂の残り水で水やりをしている。
- ・ 緑のカーテンは日よけになり、心地良い小陰の風を楽しめるし、ニガウリなど食べられるものが収穫出来る。
- ・ 我が家の台所生ごみの90%以上は土に返っている。
- ・ すでに10年ぐらいやっているが、仲間を増やすことをしてこなかったのが、思い切ってこの発表をしたいために参加した。
- ・ 高層マンションが林立する港区、特に芝浦地区は緑が少ないが、ベランダコンポストと緑のカーテンで、緑のマンション群になるといいなと思う。

【コメント】

- ・ 堆肥化をする時は、処理機を買わなければいけないって思いがち。身近なもので誰にでも出来そうなところがいい。
- ・ 堆肥化するだけだと大変だが、堆肥化した後で野菜を育てていただいたり、緑のカーテンがあることで、夕方に窓を開ける習慣が復活出来る。友人で電気代が2割減ったという例もある。
- ・ ヨーロッパの調査によると、緑をうまく使うと、排気ガスの50%以上カット出来る。素晴らしい取り組みだと思う。

【港東清掃協力会】

- ・ 港区には赤坂・青山・麻布・港東という四つの清掃協力会があり、それぞれ50年以上の歴史を持っている。
- ・ ごみの問題が次第に重視されるようになり、協力会でも条例に基づき、町会・自治会・集合住宅・企業とすべての住民に協力を呼び掛け、ごみの収集所の整理、収集後の清掃等、清潔で綺麗なまちづくりを進めてきた。
- ・ ごみ焼却場の見学、大企業のごみ処理状況、分別・リサイクルへの取り組み状況などを検証してきた。
- ・ 東京の埋め立て処分場は、あと20年ぐらいで満杯になるということで、ごみの捨て場所がなくなる。今からごみ問題に真剣に取り組み、ごみをゼロにしなければいけない。すぐにごみになるようなものは買わない、持ち帰らない。買い物はマイバッグや風呂敷などを持参。レジ袋や過剰包装を出来るだけ受け取らない。活用出来るものはすべて活用すべき。

【コメント】

- ・ 分別は自ら始まる。最初から正しいことをすると、後が楽。あとは相互協力である。

- ・ 清掃協力は清掃事業者と区民のつなぎ手として頑張ってください。
- ・ 清掃協会とか消費生活の皆さんで、自宅からどのぐらいのごみが出ているか調査していただいたところ、45リットルのごみ袋一つ分ぐらいが、1週間にプラスチック系ごみとして出てくることが分かった。
- ・ 普段レジ袋を断っている人と、断っていない人で計算をしたところ、前者の方が全体のごみが少ないことが分かった。後者は前者に対して4割ぐらい多かった。
- ・ 買い物の時に意識して過剰包装をやめることで、暮らしの中でかなり影響が出てくる気がする。
- ・ 皆さんで勉強会や調査を計画していただきたい。

【港区商店街連合会】

- ・ 港区には54の商店街があり、その中で高輪地区を担当している。
- ・ 商店街では26年前から新聞紙と段ボールの回収を行い、その収益で商店街のバスハイクに行ったり楽しく活動している。
- ・ 3R問題はそんなに楽しいものではないが、なるべく楽しくやることを心掛けてほしい。
- ・ 推進行動会議に参加してから、自らの関心が高まった。
- ・ 杉並区ではレジ袋を5円で販売するようになる。杉並区では、1億5,200万枚のレジ袋を使用しており、石油ドラム缶換算で1万4,000本ということである。それを30%削減して、ドラム缶で4,000~5,000本削減しようということではじめられたということである。
- ・ 我々も商店街として、過剰包装を含めて、ごみを渡しているような後ろめたさがある。先日の調査でも、紙ごみが50%もあったということで、今月から商店会としてレジ袋、包装紙を辞退するお客様にスタンプを差し上げている。
- ・ 港区で買い物をすると、これからは何らかのサービスが受けられることで、お客様は喜び、我々の経費節減にもなり、資源の節約になるということで、消費者の皆様全員がマイバッグを持参して、商店街に来ていただきたい。

【コメント】

- ・ 大橋さんの番組のマイバッグを、商店街で配ってはどうか。
- ・ 商店街のコンビニに行くと、「ストップ！レジ袋」というポスターがあるのに、レジの人は次から次へと聞かずに渡してくる。商店街ぐるみでストップして、デザイン性に優れたマイバッグを作って、お客さんに無料で渡す。更に、回収ボックスを商店街のところに置いて戻してもらうという仕組みは作れないものか。

【西友（スーパーマーケット）】

- ・ 4月に容器包装リサイクル法が変わるので、我々の方でもレジ袋を始めとする容器包装を削減しなければいけないということで、まずはレジ袋から削減しようということで、ハチドリキャンペーンという名称で、マイバッグ推進の運動をスタートさせている。
- ・ 今は実験段階で、3月には杉並区内の9店舗と日野市の豊田店、京都の三条店・大津店ということで12店舗で始めている。
- ・ 計画ではもう1店舗、港区にあるフードマガジン六本木を予定している。この店は、非常にハードルが高い。普通の店は、自分で袋詰めをして帰られるが、ここの店は店員が袋詰めをしている。更には、顧客の要求でレジ袋の使用量が多い。この店の使用量を増やした

いということで、本部ではなるべくハードルの高いところから始めようということで予定している。

- ・ 港区の3Rの推進の中でやってみたいということで、今後実験を六本木の店にも広げていきたいと思っている。
- ・ その時に用意しているツールが、こちらの石油製品で、1枚20円。普通のレジ袋は18ミクロンとか、20ミクロンとか薄いですが、これは70ミクロンの厚みにしている。これを繰り返し何回も利用してもらうことによって、レジ袋を削減していこうということである。
- ・ 袋の収益金は、寄付等の環境活動に利用する計画である。
- ・ 袋の破損時は、無料で新しいものと交換させてもらう計画である。

【コメント】

- ・ レジ袋を減らそうというのは、消費者が心掛けるべきこともあるが、お店側がいろいろ考えてくれると、もっと減る感じがするので、もっと情報を出していただいて、多くの人がそういうお店に買いに行くようになるといいなと思う。
- ・ 批判だけでなく、良いことをしている店を褒めることが大切である。

【日本フランチャイズチェーン協会】

- ・ 当協会加盟のコンビニエンスストアでは、環境保護・企業の社会的貢献の観点から、レジ袋の削減に取り組んできたが、業態特性として弁当・総菜等、レンジで温めて提供される場合が多く、飲料・氷・アイスクリーム等はすべて冷蔵・冷凍して提供され、品質管理・安全・衛生面の観点から、商品の一部としてレジ袋を提供している。
- ・ 消費者の購買動機として、緊急に必要にやったり、店内で衝動的に買われるケースが多いことから、マイバッグを持参して来店する顧客が少ないことから、本部企業や店舗の努力だけではレジ袋の削減に限界があった。
- ・ そこで、昨年6月1日より、当協会加盟コンビニエンスストア12社、4万2,000店、港区では10社、300店舗で、声掛けの実施や、適正サイズの利用徹底により、2010年度において最終削減目標値を35%削減と設定し、レジ袋の削減に取り組んでいる。
- ・ 特に声掛けについては、従来は「袋にお入れしましょうか」と尋ねるのが一般的だったが、何を聞かれても無意識のうちに「はい」と答えてしまうお客様が多いことから、「このままでよろしいですか」と聞き方を変えたことによって、レジ袋削減につながったという事例がある。
- ・ 本取り組みを成功させるためには、一般消費者の理解・協力が必要不可欠であることから、参加全店舗に協会統一ポスターを掲示し、レジ袋削減を呼び掛けている。
- ・ また目標値の達成を図るため、定期的に各社の取り組み状況について意見交換を行い、情報共有を図ったり、レジ袋削減ワーキンググループを中心に、効果的な取り組みや、一般消費者への告知方法等について、現在検討を行っている。
- ・ 本取り組みの中で港区と連携して出来る部分については、協力して取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 本取り組みは事業者の努力はもちろん、お客様のご理解・ご協力が必要不可欠であるため、ぜひご協力いただきたい。

【コメント】

- ・ お店と顧客のコミュニケーションが非常に大切である。それが結果につながる。

【港区清掃リサイクル課】

- ・ 区としては資源を大切にす、リサイクルを進めていくということで、昨年からすべての集積所でペットボトルの資源回収を始めている。
- ・ 今年の10月からは、これまで不燃ごみとして破碎して埋め立てていたプラスチックを、資源として回収していきたいということで考えている。平成20年度中には、全集積所でプラスチックを資源としてリサイクルしていく取り組みを予定しており、区民の協力の下に成功させたいと考えている。
- ・ 生ごみのコンポストにも支援をしていきたい。助成制度をスタートさせるのと同時に、藤野さんのようにお金を掛けなくても出来る事例もある。そういった事例も紹介しながら、各家庭の状況によっては、必ずしもうまくいかないケースがあれば、機器の購入費について上限2万ということで助成制度を始めていきたいと考えている。
- ・ リユースということでは、家具の無料提供を行っている。
- ・ 地域の祭りに区も協力をし、今後リユース食器の紹介等、ごみを出さないイベントにも取り組んでいきたいので、清掃リサイクル課にご一報いただければはせ参じるのでよろしくお願ひしたい。
- ・ リデュースについては、行政だけでは難しい。今までも広報等でお知らせはしてきたが、事業者・区民・区が一体となって取り組んでいかないと、発生抑制は出来ないと考えている。
- ・ レジ袋に関しては、区としても「ストップ！レジ袋」を合言葉に、レジ袋の削減に取り組んでいきたい。
- ・ 事業者の取り組みが活発化する中、区としても協力をし合って、支援・協力の在り方を検討・実践していきたい。
- ・ 区民や事業者に対して、分かりやすいやり方について、広報等で案内していきたい。港区から3Rを共に進めていきたいのでよろしくお願ひしたい。

【港区環境課】

- ・ 2月に、港区から排出される二酸化炭素を推量した。結果、年間380万トンという結果であった。
- ・ エコポイントカードについてご紹介したい。
- ・ 地球環境にやさしい行動を実践し、ポイントをためてもらふことを目的に今年2月からスタートし、既に1,000枚ぐらひのカードをお配りしている。
- ・ このカードを使つてもらふ時に、携帯電話、あるいはパソコンでアクセスをしてもらひ、毎日のご自身の環境行動をチェックしていただく、それよつてポイントがたまっていく仕組みになっている。
- ・ たまったポイントは、港区のエコプラザで、おもちゃ・本、無添加の食材、間伐材で作つたはしなどのバザー品と交換出来る仕組みになっている。
- ・ 4月14日には朝一エコバザーを開催する。このエコバザーでは、多摩のあきる野市から有機・無農薬野菜を、このエコポイントと交換出来る予定である。
- ・ こういつたバザー品は、港区で進めているみなと環境にやさしい事業者会議から提供を受けているものである。このみなと環境にやさしい事業者会議は、港区の企業、あるいは大学等の方々が集まって、昨年5月に29事業者が集まって設立された。現在は60事業者に増え、これまでにキャンドルナイト、打ち水、各種講演会を展開してきた。

【ホテル日航東京】

- ・ 私どものホテルでは健康に配慮し、よりすぐった食材を作って料理を出しているが、余った食材を無駄に捨てるのはもったいないということで、肥料にしている。
- ・ 単に肥料にするだけではもったいないので、消臭剤としての機能を持たせている。
- ・ かつ家庭の生ごみを減量化出来るよう、コンポストとして活用出来る機能も持たせている。

5 . 港区 3 R 推進行動宣言

区民・事業者・行政の代表が以下の宣言を読み上げた。

「私たち、区民・事業者・行政は、みんなと3Rというスローガンの下、循環型社会の形成に向けた取り組みとして、3R（発生抑制、再使用、再生利用）を推進するために、次のように行動していきます。

私たち区民は、私たちの日々の生活と、ごみや資源とのかかわりについて学び、排出者としての責任を自覚し、身近なところから生活を変えていきます。

私たち事業者は、循環型社会の形成に向けて取り組むことが、企業の社会的責任の一つであると考え、3Rに配慮した自主的な行動に従業員に促し、事業活動のあらゆる面で環境への負荷を減らしていきます。

私たち行政は、みなとクリーンプラン21に定められたごみの削減目標を達成するために、区民や事業者の行動を積極的に支援します。また、港区ならではのアイデアを具体的に計画し、実施していきます。

私たち区民・事業者・行政は、みんなとの精神を大切にし、それぞれが力を尽くし、協力することを誓います。また、今日から始めるみんなの3Rを、地域や事業者の活性化につなげ、活力ある都市づくりを進めていくことをここに宣言します。

平成19年3月27日、港区3R推進フォーラム参加者一同・港区3R推進行動会議」

6 . まとめ ・ 閉会

- ・ 本日まで参加の皆さんは、今日発表のあった活動を地域で支えてくださる方々だと思う。住民、企業人の方、大勢いらっしゃると思うが、そういった皆さんで連携・共同して、成果を上げていくことが、今本当に重要だと思う。
- ・ これだけ社会には熱心が増えているが、ごみと資源の総量は、ここ10年くらい日本全体で変わっていない。例えばリサイクルに熱心は人は増えたが、もっとお店の側で売り方を考えてもらったり、消費者が選ぶ時に考えたり、さまざまな過剰包装をなくす努力というのをもっとやれば、効果が出るということが指摘されている。
- ・ 今までには割に熱心な方が中心に旗を振ってくれたが、今それを地域に定着させる。システムとして定着させる。そういうことが大変重要な時だと思う。
- ・ 容器包装リサイクル法が10年前に出来、その成果で資源回収率が大変上がっている。他方、ごみと資源の総量が変わらないというところで、4月1日から改正容器包装リサイクル法がスタートする。何が変わるのか。急に数が変わったり、システムが大きく変わるということではなく、出来るだけお店や暮らしの中での排出を抑制する工夫を広めようというところが新しい重要な点として入った。
- ・ これから大きなお店やメーカーがどれだけ包装材を減らすか、それぞれの企業が自主的に決めることが重要だと言われている。その報告をし、その成果を上げる。あまりきちんと成果が上がらない、努力していないようなところは、その情報を出していく。逆に地域で素晴らしい取り組みについては、みんなで発信する。そういう雰囲気を作りながら、出来るだけ天然資源を大切にしながらリサイクルも進め、ごみを減らしていく社会を作っていくことが、今大変重要である。
- ・ 今日のこの大事な日に、3Rを進めるということでスタートしたことは、大変重要だと思っている。
- ・ 例えばご近所3Rで活動を広げようという話がたくさんあったが、他方事業者がこのまちにはとても多い。事業者の方が例えば昼間にお弁当を工夫して、リユースお弁当箱のようなことが出来ないかとか、いろいろ企業の皆さんにも考えていただきたいと思っている。
- ・ 港区にはたくさんの企業の本社、あるいはマスコミの本社もあるので、知恵を出し合いながら実際のところを広げていただきたい。
- ・ 今日は連携・協働で3Rを広げるということを、この港区でスタートするんだという大きな記念日にしたい。具体的な取り組みを今日から発信し、楽しいまちづくりにつなげていただきたいと思う。